

## 令和4年度 京都美術工芸大学外部評価委員会 実施報告書

1 日時 令和4年10月18日(火) 13時30分～15時15分

2 場所 京都美術工芸大学 南館1階 S101

### 3 テーマ

1. 前年度の自己点検評価について
2. 文化財情報デザインコースについて(令和5年度開講予定)
3. その他

### 4 委員

|     |                               |        |
|-----|-------------------------------|--------|
| 委員長 | 京都伝統工芸大学校 校長                  | 新谷 由貴代 |
| 委員  | 京都国立博物館 館長                    | 松本 伸之  |
| 委員  | 京都大学大学院人間環境学研究科 教授            | 中嶋 節子  |
| 委員  | 京都府文化スポーツ部大学政策課 参事            | 大饗 秀和  |
| 委員  | 京都市総合企画局総合政策室留学生支援・大学連携推進担当課長 | 川本 一範  |

### 5 外部評価委員からの意見・提言

#### 1. 前年度の自己点検評価について

##### ○評価委員A

開学より短期間で新学科設置、キャンパス移転、入学定員増加が行われ、それに伴いカリキュラムの変更等が必要だったと思うが、どのようにして整合性を保ったか。

##### 大学の所見

- ・学科設置、キャンパス移転、入学定員増加、学生数増加に伴う教員の拡充については文部科学省に事前相談を行い、学生や受験生へのアンケート結果等により一定の入学者数を見込めること等を示した。在学生への説明については、当時学生数が少数であったため、個別面談等で詳細説明を行い、理解を得ることができた。
- ・履修科目、カリキュラムについては開学当初から固定的であることは変わっておらず、履修モデルに沿って科目の選択を進めることで、移転や学生数の増加による大きな混乱はなかったと考えている。
- ・入学定員の増加に伴い、教員の拡充も行ったこと、また機器等を駆使して授業・教育の質を保つよう取り組んできた。

##### ○評価委員B

大学が変遷していく中で方向性を明らかにしていく必要がある。また、今後はSDGsを先導していく立場にあるのではないか。実質的に学生の立場でどう発信していくかを考えていくことが重要である。

#### 大学の所見

- ・京都東山キャンパスの校舎についても一部は、既存の建物を再利用しており、地域環境、景観への配慮がなされている。
- ・「こどもおわんプロジェクト」では、学生の陶芸、木工、漆芸の技術によって食器の開発を行い、京都高島屋で展示・販売を行った。長く使うことのできる食器の開発もSDGsの目標の一つである「つくる責任 使う責任」に貢献していると考えている。その他、家具のリメイク、金継ぎ等にも取り組んでいる。若い世代は高校等でSDGsについて学んでいるため、学生の関心も高いと感じる。
- ・環境に配慮するだけでなく、芸術性も失うことなく目標を設定していく必要がある。

#### ○評価委員D

美術系の大学の場合は、どのようなキャリアパス、キャリア形成を想定しているか。また資格取得は就職活動時に強みとなっているか。

#### 大学の所見

- ・コロナ禍以前は、地元の工房、社寺建築等、大学で専門として学んだことをそのまま活かした就職が多かったが、現在は難しくなっている。そのため、より資格取得が重要となってきたと感じる。3年時に資格取得とインターンシップが同時期に本格化し両立は課題であるが、今後も資格取得には力を入れていきたい。また地元での就職について、行政とも連携していきたいと考えている。
- ・一級・二級建築士以外ではインテリアプランナー、色彩検定などの資格の取得にも取り組んでおり、多数の学生が取得している。本学では1人1台PCを持つ授業体制となっており、大学以外でも学生がPCを使用できる環境のため、コンピューターリテラシーが高いと考えている。そのため、コロナ禍でのオンライン授業もスムーズに導入することができた。

#### ○評価委員C

3つのポリシーには、いずれも「コミュニケーション」が入っている。現在の大学生はコロナ世代で、オンライン授業等の増加のため、コミュニケーションに難を抱える学生も多いが、コミュニケーションについて工夫していることはあるか。

また、京都市立芸術大学が2023年度に京都駅東側へのキャンパス移転を控えており、京都駅周辺をはじめとした大きな意味でのアートなまちづくりの活性化につながると考えている。芸術・文化力でどのようにアートなまちづくりを進めていくのが良いと考えるか。

#### 大学の所見

- ・コミュニケーションは重要視しているが、難しさも感じている。本学でも通信制高校出身の学生は、コミュニケーションを苦手としている者も多く、退学者が多い傾向がある。プロジェク

トや成果発表等で京都市立芸術大学等との他大学とも連携をはかり、改善につながればと考えている。

- ・リアルなコミュニケーションを苦手とした学生が増えているが、一方で SNS を用いた新たなコミュニケーション力や積極性を持った学生も多い。行政や他大学等と連携し、コミュニケーションの機会の増加、アートなまちづくりにつなげていきたい。

## 2. 文化財情報デザインコースについて（令和5年度開講予定）

### ○評価委員A

学部やコースの連携が見えにくく、また、建築や文化財について、それぞれの専門家だけでなく、両分野をジェネラリストとしてつないでいく人材の育成が重要だと考える。また、編入学ができる国立大学が減ってきているため、編入、リカレント教育の受け皿として期待される。

### ○評価委員D

新しいコースで学びたい学生が多いと思う。引き続き、受け入れ態勢を整えてほしい。

### ○評価委員C

美術館の方から、意外と美術系の学生は美術館に来ないと聞く。文化財情報コースの授業で、本物に触れる機会をカリキュラムに取り入れ、多様な視点を持つ学生を増やしてほしい。

### 本学の所見

- ・本学にも色々な専門の教員が在籍しており、柔軟なカリキュラムに対応していきたい。また他の大学等とも連携をはかっていきたいと考えている。
- ・東山区の私立高校をはじめとし、高大連携協定を締結した高校を増やしている。本学の教員が高校で授業を行う機会も増えてきており、今後も公立高校、他大学、行政等も含めて連携を活性化していきたい。

## 3. その他

特になし。

以上